

# 深谷市立幼稚園再編方針

## 深谷市立幼稚園における保育サービスの向上及び再編方針(平成30年9月12日)

明戸、幡羅、常盤の3地区の幼稚園を統合し、新設幼稚園(深谷東幼稚園)を設置することとしました。その後の再編は、幼児教育の無償化の影響による園児数の変化を見定めつつ、2021年(令和3年)の新幼稚園設置から3年ごとに深谷市立幼稚園の状況を検討し、再編する時期を見極めていくこととしました。

平成30年	令和3年度
11園	8園
4・5歳児学級 無料の預かり (14:00-15:00)	3～5歳児学級 平日の預かり時間の延長 (14:00-18:00) 長期休業中の預かり 毎日の給食の提供

## 市立幼稚園の現状

### 1 市立幼稚園の園児数の推移

園児数は、10年間で、半減しています。

令和3年度は、3歳児学級を開設したため、増加しています。

今後においても、人口の減少に伴い、園児数の減少が予想されます。

花園幼稚園は、園児数の減少により、令和5年4月から休園となります。

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
園児数	652	575	503	454	410	406	370	314	290	418

### 2 支援を要する児童の受入れ状況

全体の園児数が減少していますが、支援を要する児童の割合は増加しています。

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
対象園児	18	24	29	24	19	24	30
全体園児数	454	410	406	370	314	290	418
割合	4.0%	5.9%	7.1%	6.5%	6.1%	8.3%	7.2%

### 3 市立幼稚園の職員数(令和4年4月1日)

任期の定めのない正規職員の割合は、低い状況です。

幼稚園	任期無	任期有	会計年度 任用職員	全体	(任期無) 正規職員率
	正規職員	正規職員			
計	28	21	41	90	31%

### 4 施設の整備状況

経過年数	20年未満	20～30年	30～40年	40年以上
幼稚園名(設置年)	おかべ(H17) 藤沢(H27) 深谷東(R2)	深谷西(H5) 花園(H8) 桜ヶ丘(H13)	深谷(S60)	上柴西(S54) 花園(S45,S55)

## 課題

### 1 幼稚園の小規模化

園児数が減少していく中、一定規模の集団活動が困難になってきています。

### 2 特別支援教育等の役割

特別な支援を要する児童の割合は増加傾向です。市立幼稚園には、今後も支援を要する児童の受入れを行うことが求められます。

### 3 幼稚園教諭の不足

任期付き任用職員、会計年度任用職員が多く、正規職員の割合が低い状況です。

### 4 施設の老朽化

一部の幼稚園の築年数は、40年を超えており、老朽化が進行しています。

## 再編の方向性

### 1 基本的な考え方

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものとなります。そのため、幼稚園は、児童に対し、成長と発達に応じた教育を行うことが求められます。深谷市立幼稚園の再編は、全ての園児が質の高い教育を受けるための教育環境の充実を基本的な考え方とします。

### 2 取組の方向性

#### (1) 規模の適正化

一定規模の集団活動を実施できるよう、市立幼稚園の統合及び施設整備を進めます。その際、統合する幼稚園は、園児が望ましい集団活動ができる規模を考慮し、1学年2学級編制に対応できる施設整備としていきます。

#### (2) 特別支援教育等の体制整備

特別な支援を要する児童への支援、子育て困難家庭への支援、深谷市立教育研究所その他の関係機関との連携等、市立幼稚園として求められる役割を果たすための体制を整備します。

#### (3) 運営体制の強化

##### ア 職員体制の充実・強化

学級担任の教諭は、正規職員を基本とし、職員体制を維持します。また、幼稚園の再編の進捗に応じ、3歳児学級に複数の正規職員を配置する等、チームによる指導体制を整備します。また、教諭の資質向上に向けた研修を充実させ、研修機会を十分に確保します。

##### イ ICT化の推進

省力化、効率化を推進し、保護者の利便性向上及び教諭の負担軽減のため、幼稚園業務のICT化を推進します。

## 今後の進め方

### 1 深谷市立幼稚園再編検討委員会における協議

委員：PTA代表、自治会代表、学識経験者、幼稚園長、教諭

### 2 再編計画の策定・公表

令和4年5月～6月を予定